



## 平成26年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年8月5日

上場取引所 東

上場会社名 ライオン株式会社

コード番号 4912 URL <http://www.lion.co.jp/>

代表者 (役職名) 取締役社長

(氏名) 濱 逸夫

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 鎌尾 義明

TEL 03-3621-6211

四半期報告書提出予定日 平成26年8月13日

配当支払開始予定日

平成26年9月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、証券アナリスト等向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成26年12月期第2四半期の連結業績(平成26年1月1日～平成26年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年12月期第2四半期	176,633	6.4	3,958	37.8	4,508	15.3	2,466	17.3
25年12月期第2四半期	166,041	3.9	2,872	27.7	3,911	38.1	2,102	81.1

(注)包括利益 26年12月期第2四半期 1,124百万円 (△84.0%) 25年12月期第2四半期 7,005百万円 (93.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年12月期第2四半期	9.19	8.97
25年12月期第2四半期	7.83	7.82

#### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	%	百万円	%	%
26年12月期第2四半期	282,557		123,742		41.8
25年12月期	282,098		124,232		42.0

(参考)自己資本 26年12月期第2四半期 118,089百万円 25年12月期 118,448百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年12月期	—	5.00	—	5.00	10.00
26年12月期	—	5.00	—	—	—
26年12月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成26年12月期の連結業績予想(平成26年1月1日～平成26年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	360,000	2.3	12,000	10.9	13,000	5.7	7,000	14.8	26.10

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 有
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年12月期2Q	299,115,346 株	25年12月期	299,115,346 株
② 期末自己株式数	26年12月期2Q	30,901,151 株	25年12月期	30,882,704 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年12月期2Q	268,224,153 株	25年12月期2Q	268,384,913 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続を実施中であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料で記述している業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、経済情勢、競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は、上記予想数値とは大きく異なる可能性があることを御承知おき下さい。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信【添付資料】p.7「(3)連結業績予想に関する定性的情報」を御覧ください。

**【添付資料】**

## 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	6
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	7
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	8
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	8
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	8
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	8
3. 四半期連結財務諸表	9
(1) 四半期連結貸借対照表	9
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	13
(4) 継続企業の前提に関する注記	15
(5) セグメント情報等	15
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	15

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期(平成26年1月1日～6月30日)のわが国経済は、消費税率引上げの影響を受ける中、企業収益や雇用情勢の改善が続き、緩やかな回復基調で推移しました。

当社グループが主に事業を展開する国内一般用消費財業界においては、増税前の駆け込み需要とその反動が生じる中、店頭での販売競争が続きました。

このような環境のもと、当社グループは、中期経営計画「V-1計画(Visi<sup>o</sup>n 2020 Part-1)」の4つの戦略テーマ「国内事業の質的成長」、「海外事業の量的成長」、「新しいビジネス価値の開発」、「組織学習能力の向上」にもとづく施策を推進しました。

国内事業では、増税前の駆け込み需要を取り込むとともに、歯磨、制汗剤、解熱鎮痛薬等で高付加価値の新製品を発売し育成に取り組みました。

海外事業では、オーラルケア、洗濯用洗剤等の主要分野において、積極的なマーケティング施策を展開し、重点ブランドの育成を図りました。

以上の結果、当第2四半期の連結業績は、売上高1,766億3千3百万円(前年同期比6.4%増、為替変動の影響を除いた実質前年同期比5.9%増)、営業利益39億5千8百万円(同37.8%増)、経常利益45億8百万円(同15.3%増)、四半期純利益24億6千6百万円(同17.3%増)となりました。

## 【連結業績の概況】

(単位：百万円)

	当第2四半期	売上比	前第2四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	176,633		166,041		10,592	6.4%
営業利益	3,958	2.2%	2,872	1.7%	1,085	37.8%
経常利益	4,508	2.6%	3,911	2.4%	597	15.3%
四半期純利益	2,466	1.4%	2,102	1.3%	363	17.3%

## 【セグメント別業績】

(単位：百万円)

	売上高				セグメント利益(営業利益)			
	当第2四半期	前第2四半期	増減額	増減率	当第2四半期	前第2四半期	増減額	増減率
一般用消費財事業	133,056	124,277	8,779	7.1%	2,274	1,323	950	71.8%
産業用品事業	28,849	24,058	4,791	19.9%	1,028	256	772	301.5%
海外事業	40,333	37,747	2,585	6.9%	387	836	△449	△53.8%
その他	13,364	12,896	467	3.6%	219	327	△107	△32.9%
小計	215,603	198,978	16,624	8.4%	3,909	2,743	1,165	42.5%
調整額	△38,969	△32,937	△6,032	—	48	129	△80	△62.1%
合計	176,633	166,041	10,592	6.4%	3,958	2,872	1,085	37.8%

セグメント別の概況は、以下のとおりです。

### <一般用消費財事業>

当事業は、「オーラルケア分野」、「ビューティケア分野」、「ファブリックケア分野」、「リビングケア分野」、「薬品分野」、「その他の分野」に分かれており、全体の売上高は、前年同期比7.1%の増加となりました。セグメント利益は、前年同期比71.8%の増加となりました。

(単位：百万円)

	当第2四半期	売上比	前第2四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	133,056		124,277		8,779	7.1%
セグメント利益	2,274	1.7%	1,323	1.1%	950	71.8%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第2四半期では12,440百万円、前第2四半期では10,659百万円となっております。

### [売上高の分野別状況]

(単位：百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	増減額	増減率
オーラルケア分野	25,682	23,736	1,945	8.2%
ビューティケア分野	11,410	9,939	1,471	14.8%
ファブリックケア分野	40,558	37,475	3,082	8.2%
リビングケア分野	9,750	9,943	△193	△2.0%
薬品分野	17,554	16,885	668	4.0%
その他の分野	28,100	26,295	1,805	6.9%

#### (オーラルケア分野)

主力の「クリニカ」シリーズを一新し、予防歯科をテーマに“歯科専門家が奨めるセルフケア”を実現するブランドとして育成を図りました。

歯磨は、当社独自の「高密着フッ素処方」に改良した「クリニカアドバンテージ ハミガキ」が好調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

歯刷牙子は、主力の「デンターシステム」が順調に推移するとともに、「クリニカアドバンテージ ハブラシ」が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

口中剤は、長時間殺菌処方でムシ歯を予防する新製品「クリニカアドバンテージ デンタルリンス」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

また、奥歯の歯間にも楽に入り、切れにくい繊維を採用した新製品「クリニカアドバンテージ デンタルフロス Y字タイプ」がお客様のご好評を得ました。

#### (ビューティケア分野)

ハンドソープは、「キレイキレイ 薬用泡ハンドソープ」が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

制汗剤は、ナノイオン制汗成分が汗ジミやニオイの原因となるワキ汗をしっかりと抑える新製品「<sup>バン</sup>Ban汗ブロックロールオン」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

**(ファブリックケア分野)**

洗濯用洗剤は、改良発売した超コンパクト液体洗剤「トップ <sup>ヘイジァ</sup>HYGIA」や液体洗剤「トップ クリアキッド」が好調に推移し、全体の売上は前年同期を上回りました。

柔軟剤は、消臭効果が続き、天然アロマのナチュラルな香りが楽しめる「香り&デオドラントのソフト アロマナチュラル」シリーズが好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

また、前期に発売した、スプレーするだけで除菌、抗菌、ウイルス除去ができる「トップ <sup>ヘイジァ</sup>HYGIA 衣類・布製品の除菌・消臭スプレー」がお客様のご好評を得ました。

**(リビングケア分野)**

台所用洗剤は、食器洗い機専用洗剤「<sup>チャーミー</sup>CHARMY クリスタ」シリーズが好調に推移しましたが、「チャーミーマイルド」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。

住居用洗剤は、浴室用カビ防止剤「ルック おふろの防カビくん煙剤」が好調に推移し、全体の売上は前年同期比微増となりました。

調理関連品は、簡単に取り出せて少量の調理に無駄なく使える新製品「リード ヘルシークッキングペーパー スマートタイプ」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を上回りました。

**(薬品分野)**

解熱鎮痛薬は、独自技術でつらい頭痛に対して“速く効いて”“胃にやさしい”を両立した新製品「バファリン プレミアム」がお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

点眼剤は、「スマイル40 プレミアム」、「スマイル40 <sup>イーエックス</sup>E X ゴールドマイルド」が好調に推移し、全体の売上は前年同期比微増となりました。

外用消炎鎮痛剤は、血流を促し、肩こり痛に効く新製品「ハリックス ほぐリラ」シリーズがお客様のご好評を得て、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

**(その他の分野)**

通信販売商品は、機能性食品等で「ナイスリムエッセンス ラクトフェリン+ラブレ」が好調に推移しましたが、主力の「ナイスリムエッセンス ラクトフェリン」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期を下回りました。また、良質な休息を支える清酒酵母を配合した「グッスミン 酵母のちから」を新発売しました。

ペット用品は、オーラルケア用品が好調に推移するとともに、猫用トイレの砂「ニオイをとる砂」が堅調に推移し、全体の売上は前年同期を上回りました。

### <産業用品事業>

当事業では、導電性カーボン、界面活性剤、業務用洗浄剤等を取り扱っており、全体の売上高は、前年同期比19.9%の増加となりました。セグメント利益は、収益性の高い製品が伸長し、前年同期比301.5%の増加となりました。

(単位：百万円)

	当第2四半期	売上比	前第2四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	28,849		24,058		4,791	19.9%
セグメント利益	1,028	3.6%	256	1.1%	772	301.5%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第2四半期では13,134百万円、前第2四半期では9,211百万円となっております。

導電性カーボンは、リチウムイオン電池などの2次電池向けケッチェンブラックが堅調に推移し、全体の売上は前年同期を上回りました。

界面活性剤は、洗剤やシャンプー向けの原料が順調に推移し、全体の売上は前年同期をかなり上回りました。

建築用薬剤は、地盤改良剤が好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

業務用洗浄剤は、ハンドソープ、厨房向け消毒用アルコールが好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回りました。

### <海外事業>

海外は、タイ、韓国、中国等において事業を展開しており、全体の売上高は、前年同期比6.9%の増加(為替変動の影響を除いた実質前年同期比は4.5%の増加)となりました。セグメント利益は、ブランド育成のためのマーケティング投資を増加させたため前年同期比53.8%の減少となりました。

(単位：百万円)

	当第2四半期	売上比	前第2四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	40,333		37,747		2,585	6.9%
セグメント利益	387	1.0%	836	2.2%	△449	△53.8%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第2四半期では2,064百万円、前第2四半期では1,906百万円となっております。

#### (主要国の状況)

タイでは、「システム」歯ブラシや「植物物語」ボディソープが好調に推移しましたが、台所用洗剤「ライポン」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期比微増となり、円貨換算では横ばいとなりました。

韓国では、「キレイキレイ」ハンドソープが好調に推移しましたが、台所用洗剤「チャムグリーン」が伸びなやみ、全体の売上は前年同期比横ばいとなりました。なお、為替変動の影響を受け円貨換算では大幅に上回りました。

中国では、「システム」歯ブラシが好調に推移し、全体の売上は前年同期を大幅に上回り、円貨換算でも大幅に上回りました。

また、超コンパクト液体洗剤「トップ ナノックス」が香港で好調に推移する中、台湾でも販売を開始しました。

## &lt;その他&gt;

(単位：百万円)

	当第2四半期	売上比	前第2四半期	売上比	増減額	増減率
売上高	13,364		12,896		467	3.6%
セグメント利益	219	1.6%	327	2.5%	△107	△32.9%

(注)売上高には、セグメント内およびセグメント間の内部売上高を含んでおり、その金額は当第2四半期では11,329百万円、前第2四半期では11,159百万円となっております。

建設請負事業等のその他では、全体の売上高は、133億6千4百万円（前年同期比3.6%増）となりました。セグメント利益は、2億1千9百万円（前年同期比32.9%減）となりました。

## (2) 連結財政状態に関する定性的情報

## ①当四半期における資産、負債および純資産の状況

(連結財政状態)

	当第2四半期 連結会計期間末	前連結会計年度末	増減
総資産（百万円）	282,557	282,098	459
純資産（百万円）	123,742	124,232	△490
自己資本比率※1（%）	41.8	42.0	△0.2

※1：自己資本比率は、（純資産－新株予約権－少数株主持分）／総資産で計算しています。

総資産は、受取手形及び売掛金が減少したものの有形固定資産の取得等により、前連結会計年度末と比較して4億5千9百万円増加し、2,825億5千7百万円となりました。純資産は、4億9千万円減少し、1,237億4千2百万円となり、自己資本比率は41.8%となりました。

## ②当四半期におけるキャッシュ・フローの状況

(連結キャッシュ・フロー)

(単位：百万円)

	当第2四半期	前第2四半期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	981	10,226	△9,244
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,745	△9,884	△860
財務活動によるキャッシュ・フロー	15,596	△1,424	17,020
換算差額	△195	463	△658
増減額	5,637	△618	6,255
現金及び現金同等物の四半期末残高	54,578	40,295	14,283

営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権の減少等により、9億8千1百万円の資金の増加となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により、107億4千5百万円の資金の減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、社債の発行や借入れによる収入等により、155億9千6百万円の資金の増加となりました。

以上の結果、当第2四半期の現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ56億3千7百万円増加し、545億7千8百万円となりました。また、前第2四半期末に比べて142億8千3百万円増加しました。



### (3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月10日に公表いたしました通期の連結業績予想については変更していません。

わが国経済は、引き続き緩やかな回復基調が見込まれます。一方、世界経済は、米国の金融政策の動向や地政学的リスクにより、先行き不透明な状況が続くものと想定されます。

当社グループが主に事業を展開する国内一般用消費財業界では、増税による駆け込み需要の反動の影響や原材料価格の上昇が見込まれ、事業環境は厳しさを増すものと予想されます。

このような事業環境の中、当社グループは引き続き重点ブランドの育成に取り組むとともに、トータルコストダウンならびに競争費用の効率化を進め、収益性の向上を目指してまいります。

(当期業績予想値算出の前提条件)

主要な為替レートは、102円/米ドル、3.1円/バーツとしています。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

### (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当しておりませんが、平成26年3月19日付でアクゾノーベル社との合弁会社であるライオン・アクゾ株式会社のアクゾノーベル社持分株式を取得いたしました。

これにより、同社は当社の持分法適用関連会社から連結子会社となりました。

また、平成26年4月1日付で、商号をライオン・スペシャリティ・ケミカルズ株式会社に変更しております。

### (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

### (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(有形固定資産の減価償却方法の変更)

従来、当社及び国内連結子会社の有形固定資産の減価償却の方法は、主として定率法によっておりましたが、第1四半期連結会計期間より定額法へ変更しております。

当社グループは、2011年に発表した新経営ビジョン「Vision2020」に従い、その戦略として1. 国内事業の質的成長、2. 海外事業の量的成長、3. 新しいビジネス価値の開発、4. 組織学習能力の向上を掲げております。これを受け、中期経営計画「V-1計画（Vision2020 Part-1）」においては、国内事業の質的成長について、①重点的ブランド育成による主要分野の地位向上、②付加価値分野育成と効率化による収益基盤強化、③研究・生産技術知見や生活者研究の強化、以上3点により推進しております。

この取り組みの一環として、研究開発センター構想の第Ⅱ期計画が2013年に竣工し2014年に本格稼働したことを機に、当社グループの有形固定資産の使用実態を適切に反映した減価償却の方法について再検討を行いました。その結果、国内の以下の変化を総合的に勘案し、減価償却の方法を定額法に変更することにより、使用期間を通じてより適切な費用配分を行うことができるものと判断いたしました。また、この変更によって、海外連結子会社と会計方針が統一され、グループ全体の業績管理に資するものと判断しております。

(1) ファブリックケア分野の市場においては、高残香タイプの柔軟剤や液体洗剤のような付加価値の高い液体製品に対する需要が高まっており、当社グループもこれに応じて製造設備の変更及び合理化を行っております。これら液体製品の製造設備は、従来製品の製造設備と比較すると、設備の損耗が平均的に発生するとともに安定的な消費需要を反映して每期安定的に稼働していく見込みです。

(2) 研究・生産技術知見や生活者研究の強化に対応して、研究開発に係わる設備の有形固定資産に占める割合が増加しております。これらの研究開発設備は、每期安定的、平均的に稼働するものと考えられます。

なお、この変更に伴い、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ455百万円増加しております。

## 3. 四半期連結財務諸表

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,559	27,334
受取手形及び売掛金	57,246	47,961
有価証券	25,429	28,244
商品及び製品	23,005	27,482
仕掛品	3,278	3,595
原材料及び貯蔵品	8,802	8,616
その他	4,881	5,038
貸倒引当金	△52	△45
流動資産合計	148,150	148,228
固定資産		
有形固定資産	68,989	74,471
無形固定資産		
商標権	10,577	8,865
その他	2,029	2,140
無形固定資産合計	12,606	11,005
投資その他の資産		
投資有価証券	33,362	30,583
その他	19,026	18,300
貸倒引当金	△37	△31
投資その他の資産合計	52,351	48,852
固定資産合計	133,948	134,329
資産合計	282,098	282,557
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	49,918	39,599
短期借入金	9,611	10,899
1年内返済予定の長期借入金	22,466	21,316
未払金及び未払費用	39,087	37,549
未払法人税等	3,057	1,682
賞与引当金	2,176	966
返品調整引当金	603	598
販売促進引当金	744	615
役員賞与引当金	231	110
その他	3,760	2,883
流動負債合計	131,656	116,222
固定負債		
新株予約権付社債	-	14,365
長期借入金	204	2,300
退職給付引当金	19,353	19,522
役員退職慰労引当金	373	393
資産除去債務	340	356
その他	5,936	5,654
固定負債合計	26,208	42,592
負債合計	157,865	158,814

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年6月30日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	34,433	34,433
資本剰余金	31,499	31,499
利益剰余金	61,410	62,533
自己株式	△16,755	△16,766
株主資本合計	110,588	111,700
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,921	6,003
繰延ヘッジ損益	24	△2
為替換算調整勘定	914	387
その他の包括利益累計額合計	7,860	6,389
新株予約権	193	878
少数株主持分	5,590	4,775
純資産合計	124,232	123,742
負債純資産合計	282,098	282,557

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
売上高	166,041	176,633
売上原価	72,670	77,229
売上総利益	93,371	99,404
販売費及び一般管理費	90,498	95,445
営業利益	2,872	3,958
営業外収益		
受取利息	107	84
受取配当金	371	369
持分法による投資利益	452	297
受取ロイヤリティー	126	127
為替差益	151	28
その他	253	199
営業外収益合計	1,463	1,106
営業外費用		
支払利息	342	370
社債利息	-	21
その他	82	164
営業外費用合計	425	556
経常利益	3,911	4,508
特別利益		
段階取得に係る差益	-	477
負ののれん発生益	-	97
投資有価証券売却益	451	-
固定資産処分益	40	-
その他	-	34
特別利益合計	492	609
特別損失		
固定資産処分損	224	147
減損損失	53	90
特別損失合計	277	237
税金等調整前四半期純利益	4,125	4,880
法人税、住民税及び事業税	942	1,242
法人税等調整額	680	911
法人税等合計	1,622	2,154
少数株主損益調整前四半期純利益	2,503	2,726
少数株主利益	400	259
四半期純利益	2,102	2,466

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,503	2,726
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,243	△918
繰延ヘッジ損益	△19	△26
為替換算調整勘定	2,003	△632
持分法適用会社に対する持分相当額	274	△24
その他の包括利益合計	4,501	△1,601
四半期包括利益	7,005	1,124
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,144	995
少数株主に係る四半期包括利益	861	129

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	4,125	4,880
減価償却費	5,414	4,996
減損損失	53	90
退職給付引当金の増減額(△は減少)	△633	959
受取利息及び受取配当金	△479	△454
支払利息	342	370
社債利息	-	21
固定資産処分損益(△は益)	183	147
投資有価証券売却損益(△は益)	△451	-
持分法による投資損益(△は益)	△452	△297
負ののれん発生益	-	△97
段階取得に係る差損益(△は益)	-	△477
売上債権の増減額(△は増加)	1,818	8,963
たな卸資産の増減額(△は増加)	619	△3,892
仕入債務の増減額(△は減少)	3,061	△11,180
未払金及び未払費用の増減額(△は減少)	△1,460	△680
その他の流動負債の増減額(△は減少)	258	232
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△736	△629
その他	△883	15
小計	10,781	2,967
利息及び配当金の受取額	716	929
利息の支払額	△293	△277
法人税等の支払額	△977	△2,637
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,226	981
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額(△は増加)	△188	947
有形固定資産の取得による支出	△9,186	△10,187
有形固定資産の売却による収入	41	11
無形固定資産の取得による支出	△71	△42
投資有価証券の取得による支出	△795	△330
投資有価証券の売却による収入	515	28
投資有価証券の償還による収入	-	500
貸付けによる支出	△163	△0
貸付金の回収による収入	1	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△1,418
子会社株式の取得による支出	-	△386
その他	△37	130
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,884	△10,745

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	10,038	8,498
短期借入金の返済による支出	△8,515	△7,074
長期借入れによる収入	-	2,107
長期借入金の返済による支出	△1,208	△1,208
社債の発行による収入	-	14,983
自己株式の取得による支出	△17	△19
自己株式の処分による収入	0	0
配当金の支払額	△1,347	△1,345
少数株主への配当金の支払額	△322	△332
その他	△52	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,424	15,596
現金及び現金同等物に係る換算差額	463	△195
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△618	5,637
現金及び現金同等物の期首残高	40,913	48,941
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,295	54,578



## (4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

## (5) セグメント情報等

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成25年1月1日至平成25年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	一般消費財 事業	産業用品事業	海外事業				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	113,617	14,846	35,841	1,736	166,041	—	166,041
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高(注)1	10,659	9,211	1,906	11,159	32,937	△ 32,937	—
計	124,277	24,058	37,747	12,896	198,978	△ 32,937	166,041
セグメント利益	1,323	256	836	327	2,743	129	2,872

(注) 1 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 129 百万円は、内部取引消去額等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年6月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	計	調整額 (注)2	四半期連結損益 計算書計上額 (注)3
	一般消費財 事業	産業用品事業	海外事業				
売上高							
(1)外部顧客への売上高	120,615	15,714	38,268	2,034	176,633	—	176,633
(2)セグメント間の 内部売上高又は 振替高(注)1	12,440	13,134	2,064	11,329	38,969	△ 38,969	—
計	133,056	28,849	40,333	13,364	215,603	△ 38,969	176,633
セグメント利益	2,274	1,028	387	219	3,909	48	3,958

(注) 1 報告セグメント内の内部取引を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額 48 百万円は、内部取引消去額等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。